



相談者・相談内容:児童の考えを深める授業



横須賀市立長井小学校
石橋 直生 先生

内容項目「感動」の教材について、ねらいとする道徳的心情のとらえ方を教えてください。
授業では、「王子のよさが分かるということは、みんなも感動する心をもっている」ことを押さえたのですが、さらに深めるには、どのような手立てが必要なのでしょうか。

2年

【主題名】
うつくしいところ

【教材名】
しあわせの王子
(光文書院)

主題を通して考えたいこと

<●感動、畏敬の念>

●目に見える綺麗なもののだけでなく、目には見えない綺麗なものがあることを知り、そのよさに感動する心を自覚させる。たとえ王子と同じ行為をすることが難しくても、王子の心の綺麗さに感動し、その感動した自分の心のよさを感じさせたい。



本時の展開

学習活動	手立て
<ul style="list-style-type: none"> ○「綺麗なもの」について、授業をする前の考えを明らかにする。 ○金の銅像とさびれた銅像を比較し、綺麗なものについて考える。 ○教材を読んでもう一度金の銅像とさびれた銅像を比較し、綺麗なものについて考える。 ○目には見えない心の綺麗さについて考えを深め、そのよさを感じる。 ○つばめの心情の変化に着目する。 ○王子の心に感動する心が自分にもあることを自覚する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業をする前の子どもの価値観を明確にする。そして、教材を読む視点をもたせる。 ●さびれた銅像の見た目は綺麗ではないが、目には見えない心の綺麗さを明らかにさせる(導入時との考えと比較して考えさせる)。 ●南に帰るつもりだったつばめを取り上げ、なぜ帰らなかったのか考え、心のよさの広がりを感じさせる。 ●王子と同じ行為ができるのではなく、王子の心が綺麗だと思う心が自分にもあることを理解させる。

本時の板書



授業で工夫した点

① 子どもの考えの変容

導入で綺麗なものとして子どもが挙げるのは、目に見えるものがほとんどだと予想した。展開部分で王子の心の綺麗さ(目には見えない)について触れ、その違いを比較し、授業の中で子どもの考えが変容しやすいよう工夫した。

② 数値や表情を使った板書

低学年ということもあり、綺麗さのレベルを数値化したり、気持ちを表情で考えさせたりすることで理解しやすいよう工夫を行った。さらに、子どもが板書に参加しやすいようにした。

授業の内容 (T:教師 C:児童)

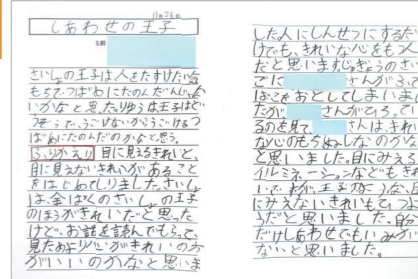
T: 綺麗だと思うものはなんですか。
C: 海。
C: 花火。
T: では、この2枚の絵は、どちらが綺麗ですか。
(左…金箔の王子、右…さびれた王子)
C: 左の絵。
C: キラキラしている。
T: 綺麗レベルはどれくらいですか。
C: 左は100で右は3ぐらいかな。
T: 今日は『しあわせの王子』というお話です。お話を読んだ後に、もう一度どちらが綺麗か聞きますので、考えましょう。

(教材範読後)

T: どちらが綺麗ですか。
C: 右かな。
C: ん～どちらも綺麗。
T: 最初に聞いたときはみんな左の絵のほうが綺麗と言っていたのに、なぜ意見が変わったのでしょうか。右の絵は、さびれているし、宝石はついていませんよ。
C: 王子の心が優しく困っている人にあげた。
T: 宝石をあげたら綺麗レベルは下がるのではないですか。
C: 助けてあげた。最初は悲しい顔をしていただけで、王子が宝石をあげて笑顔になった。
C: 心が綺麗。優しい心。
T: なるほど。でも王子はさびれちゃったから悲しい顔ですね。題名は「不幸な王子」の方がいいのではないですか。
C: いやいや。困っている人が笑顔になったから王子も笑顔になった。笑顔がうつった。
C: 王子は自分の使命をはたせてうれしい。
C: 王子はつばめに持って行ってもらえてうれしい。
T: つばめは南に行きたかったのではないですか。
C: 王子に頼まれたから行かなかった。
T: 頼まれたから、本当は南に行きたかったけど、しょうがなくやっちゃったことですか。
C: ちがう。笑顔がうつったのと同じで王子の優しい心がうつったんだよ。
C: 王子の綺麗な心がうつった。
T: そういうことなのですね。今気づいた「綺麗」は授業の最初の「綺麗」と同じですか。
C: ちがう。最初は目に見える綺麗だったけど、勉強したのは目には見えない感じられる綺麗なもの。
T: とても大切なことに気づきましたね。王子やつばめの心が綺麗だと思える皆さんの心が先生は綺麗だと思います。それでは、授業をしてみても感じたことを素直に書いてみましょう。

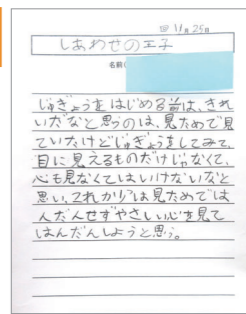
子どもの反応

【A児のふり返し】



●目には見えない綺麗なものがあることを初めて知り、そのよさに感動している。
●学習したことをクラスの友だちに当てはめて、自分ごととしてとらえ、多面的・多角的に考えることができています。

【B児のふり返し】



●授業の前後での考えの変容を感じ、書くことができています。
●ふり返りの最後に「これからは～」と書き、学習したことを自分の実生活につなげようと考えていることができています。

ここはナイス！ 価値観を揺さぶり、 視点を広げる



本授業のナイスな点は、石橋先生が授業のストーリーをご自身で考え、構成しているところです。例えば、導入で金箔の王子と、そうでない王子を比較させ、子どもたちの「綺麗」に対する意識を自覚化させている。それをきっかけに、「初めと考えが変わった」という意識をもたせることに成功しています。考えが変わったというのは、自分の「ものごと」をみる視点が変った＝広がった、深まったということです。道徳の授業は、このように子どもたちの視点(価値観)を揺さぶり、膨らませていくところに醍醐味があると思います。

わたしなら こうする！ 子どもの 発言を生かす



石橋先生は、「綺麗」に対する意識の変容を追っていかれていますが、「心の美しさ」に発展するところで、教師の方から「美しさ」について話をしてあげてもよかったかもしれません。また、授業中に子どもたちの方から「笑顔がうつった」「優しい心がうつった」というような発言が出ていますが、これは素敵な言葉です。私だったら、この子どもの言葉を使って、「優しい心がうつったのはつばめだけかな」と問い返したと思います。そして、「みなさんにも優しい心がうつった」「うつったあなたがたにも優しさがあり、だからこそ王子の心に感動したんだ」「優しい心は美しい心、そのような心が表面にうつった人が素敵だね」というような展開にできれば、子どもたちの発言を生かした授業になるのではないのでしょうか。